

漁海況旬報

14 - 18

ちば

平成14年6月25日発行
千葉県水産情報通信センター
千葉県水産研究センター

2001年(平成13年)まぐろ類の水揚量のまとめ

平成4年度から国の機関が中心となって、日本周辺を重点に北太平洋海域のまぐろ類の漁獲データ、生物学的情報等の収集・解析を行っています。そこで本県では、2001年のまぐろ類の水揚量(銚子・川津港)をまとめたので、報告します。

1. 銚子港

まき網、大目網、延縄(かじき縄を除く)、竿釣りにより水揚げされたまぐろ類の水揚量は2,770トン(ビンナガを除く)で前年の61%でした(図1)。水揚量に占める魚種の割合は、ビンナガが54%で最も多く、メバチ25%、キハダ21%、クロマグロ0%の順でした。クロマグロの水揚量は、92年以降で最も少なくなりました。クロマグロの延縄、大目網、まき網、竿釣りによる水揚量は、それぞれ10トン、9トン、5トン、0トンで、延縄、大目網では前年を大きく下回りました(図2)。クロマグロの水揚げのピークは、延縄で4・8月、大目網で3・5月、まき網で5月にみられました(図3)。

2. 川津港

曳縄、延縄により水揚げされたまぐろ類の水揚量は19トン(ビンナガを除く)で前年の67%でした(図4)。水揚量に占める魚種の割合は、例年クロマグロが大半を占めますが、ビンナガが39%で最も多く、メバチ27%、キハダ23%、クロマグロ12%の順でした。クロマグロの水揚量は、1997年まで増加した後、20トン前後で推移しましたが、2001年は4トンで、前年比16%と大きく減少しました。漁獲の大部分は曳縄が占めますが、延縄の漁獲割合が高くなりました(図5)。曳縄による水揚げは、10~11月が盛漁となりますが、2001年は盛漁期がありませんでした(図6)。

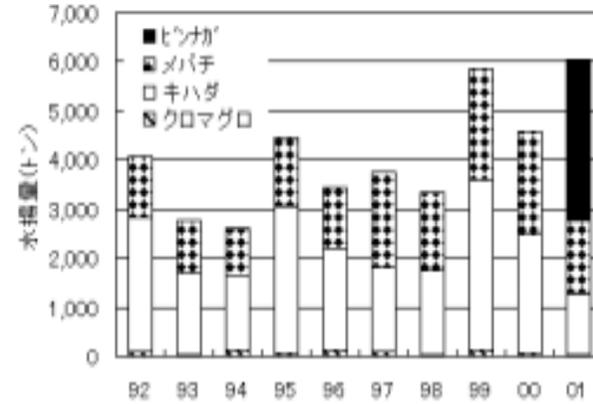


図1 まぐろ類年別水揚量(銚子港)
注)ビンナガは2001年から集計

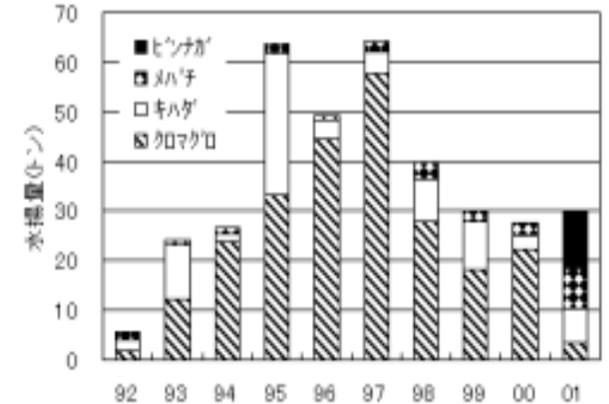


図4 まぐろ類年別水揚量(川津港)
注)ビンナガは2001年から集計

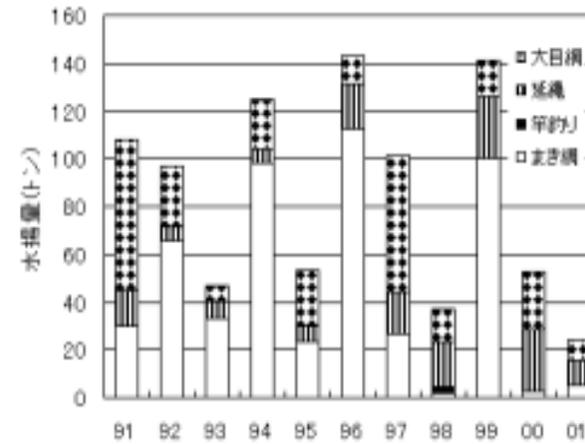


図2 クロマグロの年別漁法別水揚量(銚子港)

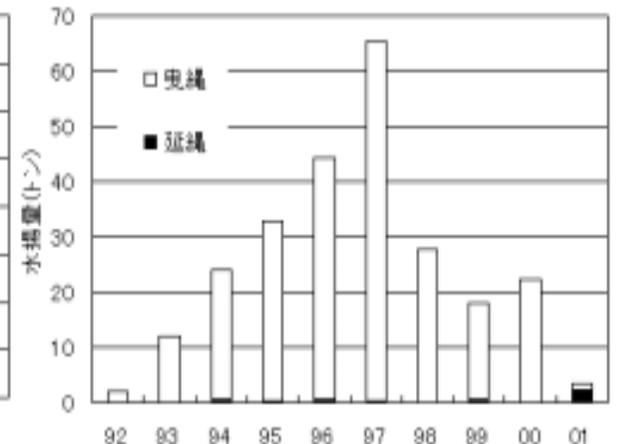


図5 クロマグロ年別漁法別水揚量(川津港)

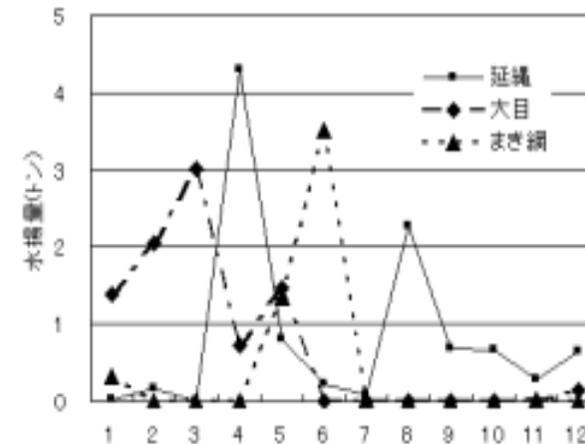


図3 クロマグロの月別漁法別水揚量(銚子港)

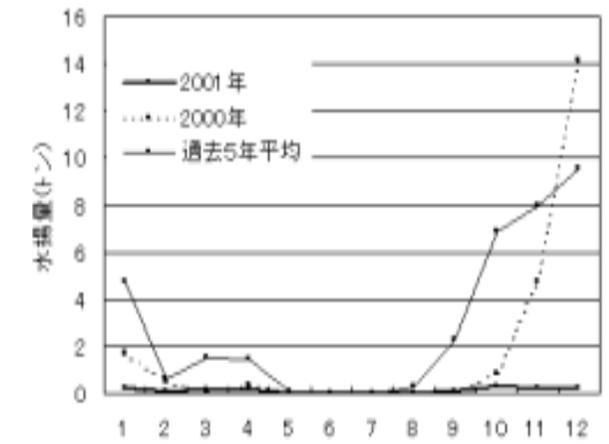


図6 曳縄によるクロマグロの月別水揚量(川津港)